

サツマイモ基腐病防除のための総合対策マニュアル

温室効果ガス

農薬

肥料

有機農業

生産 品目：サツマイモ

技術の概要

南九州、沖縄において多発し、全国へのまん延が危惧されているサツマイモ基腐病について、発生生態を明らかにし、診断・防除技術を開発して、技術者向けの対策マニュアルを作成した。

本病を的確に診断し、病原菌を「持ち込まない、増やさない、残さない」ための対策を総合的に実施することで、本病の発生を低減でき、未発生地域を含めた生産地におけるまん延防止にも有効である。



サツマイモ基腐病による株の枯死といもの腐敗

効果

◎多発生地域における基腐病の発生を低減

鹿児島県では、1株でも立ち枯れ症状が確認されたほ場の累積面積が、作付面積の75%(2021年)から35%(2022年)に減少。宮崎県青果用産地における本病実発生面積が、作付面積の34.8%(2021年)から1.9%(2022年10月末時点)に減少。

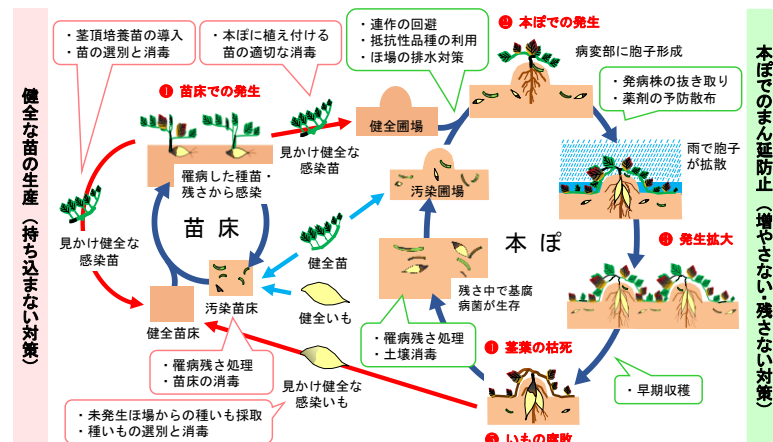
◎生産量を10%増加

上記2県の2022年の生産量は、前年よりも10%増加。

◎初発生地域における基腐病のまん延を防止

新たな発生都道府県では早期に対策を講じ、封じ込めに成功。

●基腐病の伝染環を遮断するための防除対策



導入の留意点

●各種対策の総合的かつ適切な実施

各種対策を単独または不適切に実施しても、十分な防除効果は得られない。

その他（価格帯、研究開発・改良、普及の状況）

●普及の状況

対策マニュアルで提示した対策は、多発生県における生産者向け対策マニュアルや、全国各地の関連団体が発出する広報資料、研修会資料、病害虫発生予察特殊報等に使用される他、農林水産省の基腐病対策補助事業における支援対象技術となる等、行政、生産現場、実需の幅広い範囲で活用されている。

関連情報

- サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策 技術者向け（令和4年）

